



### 遠賀(堀川)疎水碑

この碑は、明治30年(1897)堀川流域の16ヶ村の住民によって建立された。高さ5mの石碑には、「爾來災害至らず灌漑亦偏し、筑豊の徳沢を蒙ること幾三十余年、時人之を名づけて宝川と云ふ」と言う堀川をたたえる文がある。



### 舳石(もやいいし)

川ひらたが渋滞したときに、船を一時停めるための穴の開いた石で、船頭はこれに綱を結びつけ休憩しました。定格橋付近の川沿いに3基のみが現存しています。



### 近代化産業遺産 川ひらた(県立折尾高校内)

川ひらたは、江戸時代から昭和初期にかけ、米や石炭の輸送に活躍した川船で、五平太船とも呼ばれました。全盛期には一年に13万隻も往来した川ひらたですが、輸送手段がしだいに鉄道へと移行し、昭和13年(1938)を最後に堀川から姿を消しました。県の有形民俗文化財に指定(昭和37年(1962)4月19日指定)されており、現存する川ひらたは、この1隻と芦屋町歴史民俗資料館に1隻があるのみです。(6tの荷物を積むことが出来ました)



### 車返しの切り貫き

堀川工事で一番の難所だったのが、車返しとよばれるこの場所の掘削で、ノミの刃は2時間もすると使い物にならなくなり、専門の8人の職人を呼んで鍛冶場がつけられたほどで、約400mの距離を約6m~10mの幅で掘るのに9年間もかかりました。3年間で延べ人数11万人にもなった。現在は、折尾高校から河守神社にかけての岸壁にノミの跡や線刻文字が残り、当時の難工事を物語っています。



### 飢饉犠牲者供養塔(下二)

享保の飢饉では福岡藩の1/3約10万の民が死んだ。

逆立ちした  
こま犬も  
メズラシイ!



### 河守神社

河守神社には、128年間中断されていた堀川工事を再開した福岡第六代藩主 黒田継高(くろだつたか)が祀られています。また、江戸時代に描かれた三十六歌仙絵馬も奉納されています。近くには、旧一田久住宅や一田家累代の墓があります。



### 咳の神様



### 三十六歌仙 文政8年(1825) (玉泉作・小野小町) (河守神社蔵)

※吉田川の伏越  
堀川の下に吉田川あ流れる「川の立体交差」(25mのトンネル)。江戸時代の優れた技術。

中間の唐戸が  
完成して今年  
(平成24年)  
250周年。



### 吉田内往還道路(傘屋の辻)



### 旧殿様道(傘屋の辻)

400年前の水巻町吉田から八幡西区 則松へぬける道が残っている。参勤交代の殿様が通った「殿様道」。



### 中間の唐戸

宝暦12年(1762)藩は、備前の国(現在の岡山県)の吉井川に強固な唐戸が構築されているのを知り、堀川工事の役夫頭(やくぶがしら)を努めていた一田久作(いちだきゅうさく)を備前に派遣しました。江戸時代は、他藩の調査は許されておらず、冒険的な試みでしたが、無事帰国し、吉井水門を参考に中間の唐戸は完成しました。県の文化財に指定(昭和58年(1983)3月19日)されています。